

成果の説明書

(氏名) 八木橋 慶一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究活動</p> <p>平成 27 年度は、科学研究費補助金（基盤研究 C）の「英国高齢者パーソナライゼーション政策における意思決定困難者支援に関する研究」（代表：八木橋慶一）が採択された。初年度であり、予備調査に重点的に取り組んだ。</p> <p>また、高崎経済大学特別研究助成金も得て研究を行った。研究テーマは、「英国における多問題家族支援への社会的企業の影響に関する研究」であった。</p> <p>夏期には競争的資金を活用してイギリスに渡航し、現地において関係機関の視察、研究者や社会的企業関係者、高齢者福祉サービスの実務家へのインタビュー、政府機関や地方自治体の担当者へのヒアリングも実施した。調査を通じて、英国における社会的企業の実態、とりわけ経営環境の厳しさを把握することができた。</p> <p>成果物としては、出原政雄・長谷川一年・竹島博之編『原理から考える政治学』（法律文化社）に「格差／貧困——福祉国家再考」を掲載した。</p> <p>② 教育活動</p> <p>平成 27 年度は、「NPO 論」（前期）、「社会起業論」（後期）、「コミュニティビジネス論」（後期）の 3 つの講義を担当した。講義では、理論や著名な事例を紹介するだけではなく、実務家をゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの団体における具体的な活動を紹介してもらう機会を設けた。講演後はレスポンスシートの提出を求めた。それらの内容から、NPO や社会的企業が実際にどのように事業を行っているか、当事者からの説明で学生が深く理解できたことを確認した。</p> <p>またゼミ形式の科目として「初年次ゼミ」（前期および後期）を担当し、1 年生に大学における学習の作法、口頭発表の技術などについて指導を行った。</p> <p>そのほかには、「演習 I」（3 年ゼミ）への準備として、ゼミに決定した 2 年生を対象とするサブゼミを月に 1、2 回の頻度で開催した。基本文献の輪読を行うことにより、学生は基礎知識を習得できた。</p> <p>③ 学内業務・社会活動など</p> <p>学内業務では、地域科学研究所の図書委員として研究所紀要の編集業務に携わった。そのほかには、ラジオ高崎の「ラジオゼミナール」に出演し、「ソーシャルビジネスとは」（8 月 22 日）および「ソーシャルビジネスが地方創生に果たす役割」（8 月 29 日）の講義を行った。また、高校への出前授業も一件担当し、群馬県立桐生女子高校に出講した（12 月 3 日）。講義名は「社会貢献とビジネスの両立を考える」であった。</p> <p>社会活動では、日本政策金融公庫高崎支店が中心となり、高崎商工会議所などと連携して発足させた「高崎ソーシャルビジネスサポートネットワーク」の顧問に就任し、関係者にソーシャルビジネスに関する助言を行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

- ① 平成 27 年度に競争的資金を用いて調査した内容をまとめ、成果を公表する。
- ② 上記以外に継続して行っている研究の成果をまとめ、論文として発表する。
- ③ 演習Ⅰ（3 年ゼミ）では、演習Ⅱ（4 年生）で作成することになる卒業論文の準備期間としてきめ細かい指導を行いたい。